

No. 72 2014 年

日彫会報

公益社団法人
日本彫刻会

事務所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-29-18 レジヨン・ド・諏訪202号室

TEL 03(3209)1861 FAX 03(3232)0557

<http://www.niccho.com/> email: webmaster@niccho.com

— 伝統と革新 彫塑表現の今を求めて —



朝倉彫塑塾授業風景

(写真提供：朝倉彫塑館)

理事長就任のご挨拶

日本彫刻会理事長

山本 眞 輔



この度、平成二十六年から二十七年にわたる二年間、理事長を仰せつかりました。もとよりその任に非ずと自認してはおりますが会員諸氏、関係各位のご協力ご支援のもと任務を全うしたいものと思っております。よろしくお願い申し上げます。

平成二十二年に公益社団法人に移行。平成二十四年から展覧会開催会場も六本木の国立新美術館からリニューアルした東京都美術館に戻りました。先輩諸氏のご努力により日本彫刻会の新しい体制が整いました。長い歴史を持ち、世界に類を見ない「彫刻家のみ」の組織が日本の現代社会の中でどのように機能していくかということが、これを継承する私共の正念場であります。委員会のメンバーも一新され、いよいよ本格的に公益社団法人として一層の充実を図る時期がやってきました。

日本彫刻会の歴史と伝統を大切にしながら、これからの時代に即応していかなければなりません。そのために二つのキーワード「社会貢献」と「原点回帰」を提唱いたします。

「社会貢献」とは対外的な活動です。美術彫刻を中心にした種々の活動、研究会、講演会、出版事業などの広報活動、そして、新設した「鑑賞支援部」による鑑賞企画のさらなる充実を含めた種々の啓蒙活動です。これが彫刻理解者を増やすことにもつながると思えます。

「原点回帰」とは対内的、自分に対する活動です。彫刻家ひとりひとりの内容の充実です。彫刻と絵画は純粹に「美」を追及する芸術であり決まった方式はありません。各自が新しい作品表現に挑戦するなど自由にできるジャンルです。各自が作家としての多方面にわたる可能性を追求し多様性を示してくれることを期待します。この多様性を示すことが、現代に生きる我々に課せられた課題であると考えます。具体的な活動については圓鋸委員長をはじめ、各部門に人材を得ました。加えて会員諸氏の協力を得て充実したものにして参ります。会員諸氏の自主研鑽の結果が「日彫展」の充実、そして明日へとつながってまいります。地に足をつけた活動、さらに身の丈に合った活動を心がけながら、一致団結して現代をリードする彫刻作品による「日彫展」を創っていききたいものと思っております。

理事長就任に際し所感の一部を述べ、就任のご挨拶とさせていただきます。

委員長就任のご挨拶

日本彫刻会委員長

圓鋸 元 規



この度、理事会において委員長の大役を仰せ付かりました。

非力を自認しておりますが、新理事長の山本眞輔先生のご指導のもと、新委員の皆様と共に、二年間職責を果たしてまいりたいと思っております。

昨今の社会のめまぐるしい変化の中にあつて、経済が良くなってくれないと色々な所に影響が出て、今、日彫会もさまざまな問題をかかえております。守るべきものは守りながら柔軟性を持つて対処し、日彫会がより魅力のある団体となる為に、少しでもお役に立てます様、委員一同努力致してまいります。

皆様方のご指導とご協力を切にお願い申し上げます。委員長就任のご挨拶とさせていただきます。

平成26年度日本彫刻会総会

第85回通常総会報告

平成26年1月24日（金）午後3時から日展会館において第85回通常総会が開催されました。

出席者 正会員 211名（内委任状165名）

定款17条の定めるところにより総会成立

議事

第一号議案 平成25年度 事業報告承認の件

第二号議案 平成25年度決算報告承認の件

監査報告

第三号議案 第44回日彫展開催に関する件

第四号議案 会員資格喪失の件

第五号議案 会員状況承認の件

第六号議案 役員改選の件

理事長 山本眞輔

委員長 圓鐔元規

会務委員（10名）

庶務部 石黒光二 山崎茂樹 小宮山美貴

企画部 堀尾秀樹 吉岡徹 堀龍太郎

小関良太

会計部 寒河江淳二 九後稔

出版・広報委員（6名）

村井良樹 上田ふみ 長谷川倫子

一 鍛田徹 前芝武史 宮坂慎司

全議案とも異議なく承認されました。

報告事項

平成26年事業計画の報告をはじめ、第44回日彫展審査員・会友推挙選考委員の発表、日彫友の会概要報告（詳細4頁）他、全9件の報告及び、日彫会・日彫展の呼称について、今後は公式文書等において正式名称として「日本彫刻会」「日本彫刻会展覧会」を使用する方針が示されました。

また、高齢者会員を祝賀して、名嘉地千鶴子先生に賀詞と記念品が贈られるとの発表がありました。

第44回日彫展

本年開催される第44回日彫展は、上野の杜に戻り、3回目の展覧会となります。例年通り東京都美術館ギャラリーA・B・Cを会場として、平成26年4月19日（土）から4月30日（火）まで、多様な彫刻美のかたちを追求した作品が展示されます。皆様方の多くのご来場をお待ちしております。

《第44回日彫展開催要項》

名称 第44回日彫展

主催 公益社団法人日本彫刻会

会場 東京都美術館ギャラリーA・B・C
（東京都台東区上野公園8-36）

会期 平成26年4月19日（土）～4月30日（水）
※4月21日（月）休館

開場時間 午前9時半～午後5時半
（入場は午後5時まで）

最終日 午前9時半～午後2時
（入場は午後1時半まで）

入場料 一般 700円（20名以上一人400円）
学生〔中・高・大生〕400円
（20名以上一人300円）

小学生 100円
障がい者手帳をお持ちの方、及び付添2名まで 入場無料

就学前幼児・70歳以上の方 入場無料

東京都美術館 地下3階 日彫展受付

4月6日（日）午前10時半～午後4時

4月8日（火）午前10時～午後2時

業者搬入は4月6日（日）とする。

※ 個人搬入以外の宛先は本会賛助会員・株式会社谷中田美術、岡村美術運送店、株式会社インプレス美術事業部、善信社運送株式会社の各美術運送宛とする。但し、個人で以前から取引のある業者は、この限りではない。

※ 搬入作品に対して本会においては十分に注意するが、不慮の災害及び紛失や破損に対してはその責任を負わない。なお、保険加入については個人の判断で行うものとする。

点数

高さ 230cm 以内

幅・奥行き 各150cm 以内

重量 1,000kg 以内

出品手数料 一般応募者 12,000円
（図録1冊贈呈）

審査員

山本眞輔

圓鐔元規

齋藤尤鶴

早川高師

山崎和國

徳安和博

南川憲生

会友推挙選考委員

楠元香代子

原田治展

鑑査・審査 4月12日（土）

入選発表表 4月13日（日）

賞 午後4時ホームページ上で発表

日彫賞 3名以内 正会員・会友が対象

優秀賞 5名以内 正会員・会友が対象

新人賞 5名以内 入選者が対象

西望賞 1名

西望賞

第44回日彫展西望賞審査員

美術評論家 市川政憲 先生

全陳列作品を対象として、最も優れた作品
一点に西望賞を授与する。但し、本会の顧問・
理事・監事・及び前年度までの日本芸術院賞、
日展における大臣賞・会員賞、日彫展にお
ける西望賞の受賞者の作品を除く。

表彰式及びオープニングパーティ

日時 4月19日(土) 午後5時～

場所 東天紅上野本店(東京都台東区池之端1-4-33)

搬出 東京都美術館 地下3階 日彫展受付

陳列作品 4月30日(水) 午後2時半～午後4時半

5月1日(木) 午前10時～正午

選外作品 4月17日(木) 午前10時～午後2時

※ 上記開催中に搬出なき場合はその作品
に対し本会は責任を負わない。

企画 ・彫刻研究会 4月19日(土) 午後1時～

・ギャラリートーク 初日、最終日を除く

期間中毎日午後2時～

・タッチツアー・鑑賞教室

申し込みにより実施

第44回日彫東海展

会場 愛知芸術文化センター愛知県美術館ギャラリ

(愛知県名古屋市中区東桜1-13-2)

会期 平成26年5月13日(火)～5月18日(日)

第44回日彫北陸展

会場 富山市民プラザ(富山県富山市大手町6-14)

会期 平成26年5月31日(土)～6月5日(木)

日彫友の会発足

「視覚障がい者への彫刻鑑賞支援の

新たな展開に向けて」

◆これまでの歩み

第36回日彫展(平成18年)において、「触れる
彫刻鑑賞プロジェクト」が始まりました。これは、
これまで日彫会が取り組んできた視覚障がい者
への彫刻鑑賞支援の一環であり、主な活動内容
は、東京近郊の盲学校の児童生徒を対象とした
彫刻鑑賞教室の開催、視覚障がいのある成人の
来館者を対象としたタッチツアーの開催、及び
これらに伴う調査研究でした。

プロジェクトは、第43回日彫展(平成25年)
までの8年間実施され、彫刻鑑賞教室・タッチ
ツアーに参加した視覚障がい者は延べ約440
名に及びました。これは、多くの視覚障がい者
に対し、触れることによる彫刻鑑賞の機会を提
供することができたと云えます。

また、プロジェクトでは彫刻鑑賞教室・タッチ
ツアーの実施・検証・改善を通して、より質
の高い鑑賞支援のあり方について研究を重ねま
した。その結果、視覚障がい者に対して、作品
の素材・寸法・モチーフ・技法など多様な表現
との出会いを提供することができ、参加者の彫
刻を鑑賞する力を培い、彫刻作品の本質的な表
現(量感・存在感・世界観)を味わうことの喜
びにつなげることができました。

これらの成果は、新聞やラジオなどで高く評
価され、日彫会の取り組みが、視覚障がい者の
彫刻鑑賞支援の推進・拡充の一翼を担う存在と
して、広く社会から期待されるものとなりました。

さらに、このプロジェクトは、平成22年から
公益社団法人となった日彫会の使命を果たすこ
とに貢献しただけでなく、我々が彫刻家として、
触覚芸術である彫刻の魅力・表現の可能性を再
認識する機会となりました。作家と鑑賞者の相
互関係の下、発展を遂げてきた日彫会にとって、
様々な鑑賞者との関わりは新たな制作の原動力
となっております。

◆日彫友の会の発足

これまで、日彫会の歴史とともに歩んできた
視覚障がい者への彫刻鑑賞支援は、ご厚意で協
力してくださる外部の方々のご尽力があつて、
はじめて、日彫会として企画・運営を行なうこ
とができました。視覚障がいのある方、盲学校
の教員、大学などの研究機関、様々な方々のご
協力です。例えば、どのような作品が触れて鑑
賞する際に適当なのか、視覚障がいのある方に
配慮すべき点、点訳に適した作品解説文の書き
方、タッチツアー・鑑賞教室の当日のタイムス
ケジュールなどに関して、本会だけでは気づけ
ない点を当事者として、専門家としてご協力い
ただいてきました。

そして、昨年の理事会、今年1月の通常総会
を経て、新たに「日彫友の会」が発足すること
となりました。

これに伴い、視覚障がい者への鑑賞支援にご
協力くださる方々を「日彫友の会」会員とし、
展覧会委員「触れる彫刻鑑賞プロジェクト部」
を「鑑賞支援部」に改称し、双方が明確な位置
づけのもと協働する関係になりました。つまり、
これからは視覚障がい者への彫刻鑑賞支援に対
して、日彫会会員だけでなく広く社会の方々
とともに、日彫会の内部・外部が一緒に連携・協
力し取り組んでいきます。

第 36 回 日 彫 展 (H 18 年)	鑑賞教室：筑波大学附属盲学校（高校生 16 名）、東京都立葛飾盲学校（中学生 14 名）、東京都立久我山盲学校（小学生 28 名） タッチツアー：通算参加者 約 10 名
第 37 回 日 彫 展 (H 19 年)	鑑賞教室：筑波大学附属盲学校（高校生 19 名）、東京都立久我山盲学校（小学生 11 名）、東京都立葛飾盲学校（中学生 4 名） タッチツアー：通算参加者 約 11 名
第 38 回 日 彫 展 (H 20 年)	鑑賞教室：東京都立文京盲学校（高校生 8 名）、千葉県立千葉盲学校（中学生 9 名）、筑波大学附属視覚特別支援学校（中高生 14 名）、東京都立久我山盲学校（小学生 7 名）、東京都立葛飾盲学校（中学生 6 名） タッチツアー：通算参加者 約 10 名
第 39 回 日 彫 展 (H 21 年)	鑑賞教室：筑波大学附属視覚特別支援学校（高校生 17 名）、東京都立葛飾盲学校（中学生 6 名）、東京都立久我山盲学校（小中学生 32 名） タッチツアー：通算参加者 約 32 名
第 40 回 念 日 彫 展 (H 22 年)	鑑賞教室：東京都立久我山青光学園（小学生 9 名）、筑波大学附属視覚特別支援学校（高校生 19 名）、東京都立葛飾盲学校（中学生 7 名） タッチツアー：通算参加者 約 7 名
第 41 回 日 彫 展 (H 23 年)	鑑賞教室：東京都立久我山青光学園（小学生 9 名）、東京都立葛飾盲学校（中学生 11 名）、筑波大学附属視覚特別支援学校（高校生 17 名） タッチツアー：通算参加者 約 8 名
第 42 回 日 彫 展 (H 24 年)	鑑賞教室：東京都立久我山青光学園（小学生 38 名）、東京都立葛飾盲学校（中学生 4 名） タッチツアー：通算参加者 約 10 名
第 43 回 日 彫 展 (H 25 年)	東京都立久我山青光学園（小学生 16 名）、東京都立葛飾盲学校（中学生 1 名）、筑波大学附属視覚特別支援学校（高校生 17 名） タッチツアー：通算参加者 約 3 名

「触れる彫刻鑑賞プロジェクト」鑑賞教室・タッチツアー参加者数

◆日彫会と日彫友の会の連携

日彫友の会は、日彫会の趣意に賛同し、視覚障がい者の方々とともに、彫刻鑑賞の推進・拡充に寄与することを目的とした会です。日彫友の会会員とは、この目的に賛同された方であり、日彫会の会員如何を問わず、広く社会の方々に会員とします。尚、日彫友の会会長は、日彫会の委員長が兼任します。

日彫友の会会員と日彫会会務委員の双方から、連絡調整委員（6～7名）が会長によって選ばれます。連絡調整委員は、大きく二つの役割を担います。

一つ目は、友の会での活動のまとめ役です。次頁の図のように、連絡調整委員が活動の方向性を話し合い決定し、会員に連絡します。活動ごとに参加できる会員が集まり、連絡調整委員のまとめのもと活動します。

二つ目は、日彫会との連絡・調整を図ることです。日彫会と日彫友の会が密に連携しながら、タッチツアーや鑑賞教室などの企画・運営を行なえるよう、連絡調整委員がパイプ役となります。

このように、連絡調整委員が友の会の活動を支えることにより、日彫会と協働する関係をつくります。尚、日彫会は友の会設立だけでなく、連絡調整委員を通して、友の会運営全般のサポートを行ないます。

◆日彫友の会の具体的な活動内容

発足時の主な活動内容は次の四つです。

(一) 日彫展での視覚障がい者の鑑賞支援

触れる彫刻鑑賞プロジェクトで取り組んでいたタッチツアー・鑑賞教室の企画・運営を、主

に日彫展の鑑賞支援部と協働して行います。触れることができる作品の選定、作品解説文の作成、作品解説文の点訳依頼、タッチツアー・鑑賞教室の実施、タッチツアー・鑑賞教室の参加者アンケートの集約、反省点および改善案の検討などに取り組みます。

(二) 触れて鑑賞できる彫刻展の啓発・情報の発信（日彫会ホームページによる発信）

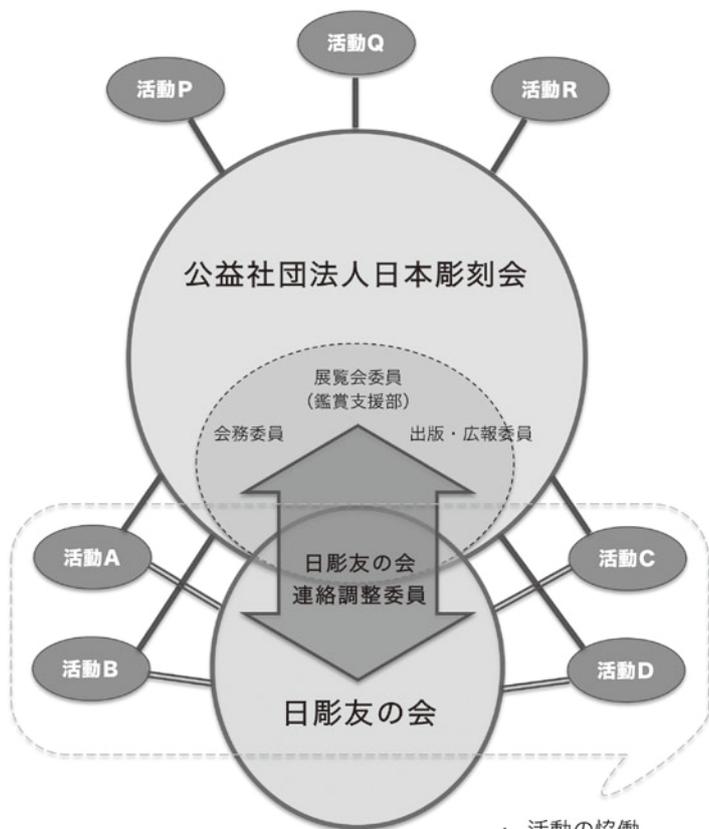
視覚障がい者が触れて鑑賞することができるとの展覧会について、これまでの実績を踏まえた啓発活動を行い、普及に努めます。また、触れて鑑賞できる彫刻展の情報を発信します。尚、この活動は主に、日彫会会員、会務委員、事務と協働して行ないます。

(三) 日彫展の作品解説文や研究誌（アートライブラリー）などの点訳

タッチツアーや鑑賞教室で、視覚障がいのある方が読むことができるよう、日彫展の作品解説文を点訳したものを作成します。また、多くの方が彫刻について見聞を広められるよう、研究誌であるアートライブラリーなどについてもテキストデータ化したものをホームページに掲載し、視覚障がいのある方でも、耳で聞いて読むことができるようにします。尚、この活動においては、主に鑑賞支援部、会務委員、出版・広報委員と協働して取り組みます。

(四) 日彫会報での活動報告

友の会の活動内容について、年1回程度、日彫会報において報告します。この活動では、主に、



《日彫友の会 活動モデル》

鑑賞支援部、会務委員、出版・広報委員と協働します。以上のように、これまでの視覚障がい者への鑑賞支援の流れを踏襲しながらも、友の会が設立されたからこそできるようなったことが活動内容に盛り込まれています。今まで以上に彫刻鑑賞の推進・拡充に対して貢献し、日彫会の益々の発展に寄与することが望まれます。ただし、日彫友の会は発足間もない会です。日彫会の会員の皆様のご協力なくしては、成り立ちません。日彫会と日彫友の会が互いに高めあえる関係となるよう、お力添えのほどよろしくお願いいたします。

※日彫友の会の申し合わせ事項に関しては、今年1月の第85回通常総会資料に掲載しております。



鑑賞教室の様子

日彫友の会連絡調整委員

主任 永江智尚 (日彫会会員)

青松利明

青松紀野

中原篤徳 (日彫会会員)

小橋暁子 (日彫会会員 会務委員)

半田こずゑ

宮坂慎司 (日彫会会員 出版・広報委員)

第9回日彫会新鋭選抜展

本年6月に、銀座ギャラリー青羅において、9回目を数える日彫会新鋭選抜展が開催されます。日彫会新鋭選抜展は、日本彫刻会の次代を担う新鋭による意欲的な作品が並ぶ展覧会です。会期中、お近くにお越しの際には是非お立ち寄りください。

詳細については左記の通りです。

会場 美術会館・ギャラリー青羅

会期 平成26年6月1日(日)～6月14日(土)

出品者

小関良太	梶川俊一郎	神谷睦代
小宮山美貴	高石麻代	高野真悟
寺山三佳	徳安和博	丹羽俊揮
宮坂慎司	森矢真人	桑原秀栄
小橋暁子	佐藤徹	鈴木紹陶武
田村さつき	時田直彦	永江智尚
長谷川倫子	三宅信行	森田一成
横山丈樹	上松真弥	志満津華子
武本大志	山本将之	(以上26名)



第8回展作品展示風景

東京彫刻散歩Ⅶ

《平和来》 ブロンズ 1952 (写真8頁)

朝倉文夫 (1883～1964)

設置場所 慶應義塾大学三田キャンパス内

東京都港区三田2-15-45

昨春秋、保存修復工事を終えた朝倉彫塑館が、4年半ぶりにリニューアルオープンしたことは皆さんの記憶に新しいところでしょう。朝倉文夫が過ごした57年、土と語らった日々がそこには刻まれています。

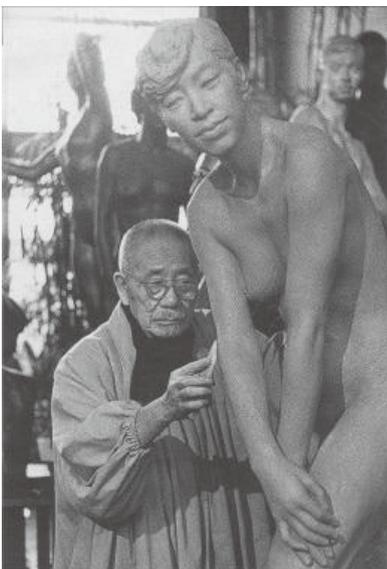
言わずもがな、朝倉文夫は日本近代彫刻の重鎮であり、日本彫刻会の創立メンバーの一人です。大分県大野郡池田村(現豊後大野市)に生まれ、朝倉は、東京美術学校(現東京藝術大学)を卒業する頃には既に新進気鋭の彫塑家として頭角を現し、文展を中心に精力的に制作を重ねました。昭和23年には、彫刻家として初めて文化勲章を受章しています。

先に挙げた、総括的に朝倉の彫刻芸術に触れられる朝倉彫塑館を始め、上野駅の《翼の像》や《三相 智情意》、早稲田大学早稲田キャンパスの《大隈重信像》など、現代においても朝倉の彫刻は多くの地に根付いています。そこで、今回の彫刻散歩では、慶應義塾大学三田キャンパス内東門付近に設置されている《平和来》を紹介したいと思います。

重要文化財である三田演説館や赤レンガの図書館旧館など、歴史を感じさせる美しいキャンパスに凛と立つ《平和来》は、昭和27年第8回日展に出品された作品です。一貫して自然主義的写実を追究した朝倉の、円熟した彫塑表現を感じられる男性の立像です。アカデミズムのなかにあって、その卓越した描写ゆえに、ときに批判の対象ともなった朝倉の写実ですが、その表現の根幹にはやはり生命の躍動があり、彫刻の発する息づかいはこの作品においても感じることができません。

「平和来」という題名に願いを込めたのでしよう、この作品は戦没した塾員に捧げる像として、昭和7年卒業生より、卒業25年記念として寄贈され、建立されました。台座には、「丘の上の平和なる日々」に「征きて還らぬ人々を思ふ」と、戦時中塾長であった小泉信三の碑文が刻まれています。また、春には空間を彩るように咲く桜を背景として、平穏な時間を見据えているようです。

キャンパス内には他にも、朝倉文夫作《小山



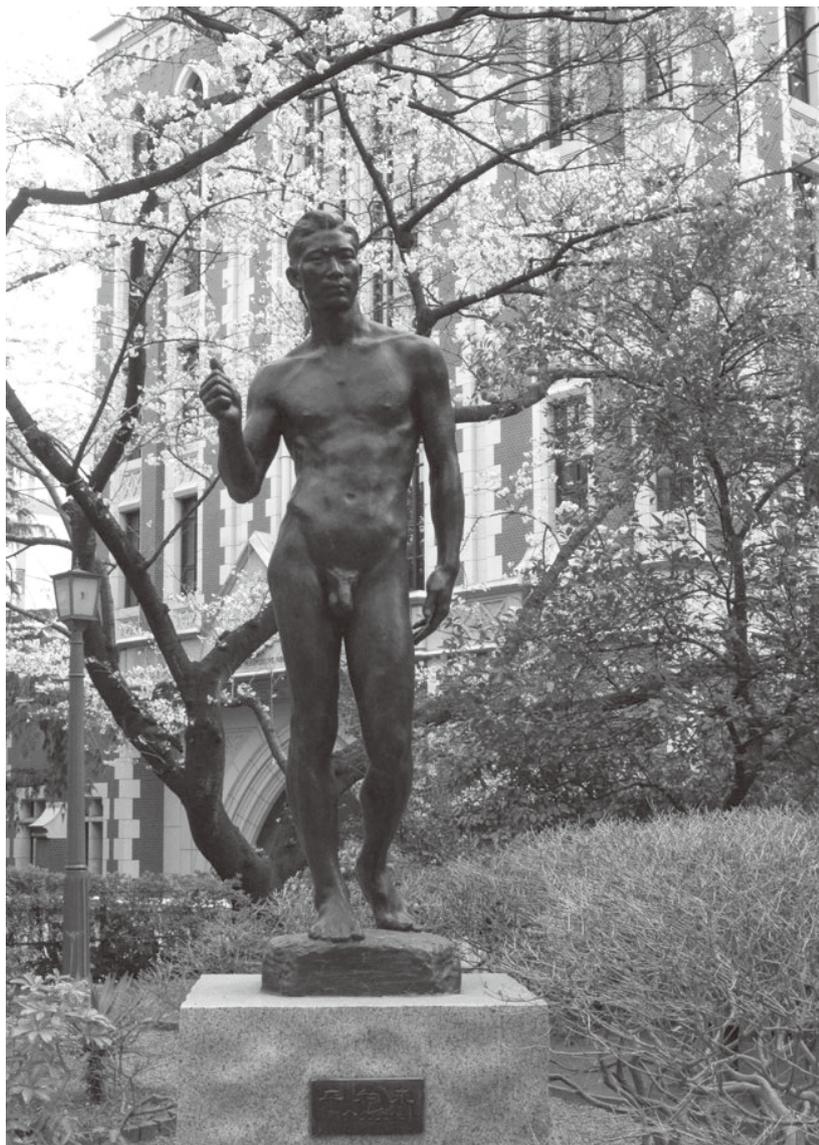
朝倉文夫による彫塑制作の様子

写真提供…朝倉彫塑館

内薫胸像》や、北村四海、菊池一雄、イサムノグチをはじめとする彫刻家たちの優作を見ることができず。東京散策の際には彫刻散歩に立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

本年は朝倉文夫没後五十年の年となります。朝倉が逝去した1964年は東京オリンピックが開かれた年であり、新しい時代を感じさせる

潮流にありました。そしてこの年は、国立西洋美術館においてミロのビーナス特別公開が催され、美の原点が確認された年でもありました。「二日土をいじらざれば、一日の退歩」という朝倉文夫の教えを今一度噛み締めながら、伝統と革新についての考え、彫塑表現と向き合っていたものです。



慶應義塾大学三田キャンパス 《平和来》 朝倉文夫 ブロンズ

写真提供

慶應義塾大学アート・センター

〈散歩のご案内〉

〈最寄駅〉

- ・ 田町駅（JR山手線・京浜東北線）徒歩8分
- ・ 三田駅（都営地下鉄浅草線・三田線）徒歩7分
- ・ 赤羽橋駅（都営地下鉄大江戸線）徒歩8分

訃報

左記の方が長逝されました。謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

賛助会員 川副美術铸造所
代表 川副庄三郎 様

平成25年12月

編集後記

◆編集に際しましてご協力頂きました朝倉彫塑館・戸張泰子様、慶應義塾大学アート・センター・渡部葉子様、並びに先生方に謹んでお礼申し上げます。

◆本号では、新たに発足された「日彫友の会」についてご紹介させて頂きました。同会は、旧来の視覚に障がいのある方への彫刻鑑賞支援を、より社会に拓かれた形で、拡充することを目指し発展させたものです。今後とも皆様のご指導、ご協力のほど宜しくお願い致します。

◆「東京彫刻散歩」では、本会の源流である「日本彫塑家倶楽部」の創立メンバーであった朝倉文夫先生を採りあげました。朝倉先生は、大正期から「東台彫塑会」、「蕃土拉舎」といった団体を結成し、一般の人々が興味を持って彫刻鑑賞できる展覧会を企画し実践されていきました。こうした先達による戦前からの活動によって、我が国における彫塑表現の興隆が今に続いていることが偲ばれます。

編集委員 堀内秀雄 長谷川倫子 一鍛田徹
前芝武史 三政洋一 宮坂慎司

日彫会報 No.72 平成26年2月28日発行